

もしもの火災! 対応行動を頭に入れておきましょう。

■火災ではなかった場合



火災が発生していなくても、湯気や故障などにより、自動火災報知設備等が鳴動することがあります。このようなことが続く場合には、設備業者等に相談してみましょう。

■火災場所の確認



火災の疑いのある部屋に駆け付けます。このときには、消火器を携行します。

■火災室からの避難



火災室に自力で避難できない方がいる場合には、適切な介助により、一時的に火災室の外の安全な場所に避難させましょう。



■初期消火および戸の閉鎖



火災室に逃げ遅れ者がいないことを確認し、消火器などを使って消火をします。なお、炎が既に天井まで届いているなど消火が困難な場合には、避難を優先します。



火災室を離れるときには、火災を拡大させないよう、ドアや引き戸を閉鎖することが大切です。

■火災覚知



火災を覚知したら(自動火災報知設備等が鳴動したら)、素早く行動を起こします。

■消防隊への情報提供



消防隊が到着したら、逃げ遅れ者やケガ人の有無など必要な情報を伝えます。

■火災室以外にいる者の建物外等への避難



火災の発生を呼びながら、逃げ遅れ者の有無を確認していきます。自力避難できない方などには、適切な介助を行います。



■火災室にいた自力避難困難者の建物外までの避難介助



一時的に火災室の外に避難した方を、建物の外の安全な場所まで避難させます。

■消防機関への通報



消防機関へ119番をして、必要な事項を速やかに伝えます(又は火災通報装置を起動します)。*通報に関しては、この流れにとらわれることなく、できるだけ早いタイミングで行って下さい。

火災発生時の行動

万が一の備え 消防訓練を実施しましょう。

訓練実施の事前準備など

- 訓練中にケガをしないよう、心がけましょう。
- 訓練は、避難が最も困難な状況を設定します。
- 利用者が訓練に参加できないときは、職員が代役となるか、人形で代用しましょう。
- 近隣に、非常時に協力してくれる方がいる場合は、一緒に訓練を行うと良いでしょう。
- 自力で避難できない方がいる場合は、介助方法を事前に理解しておきましょう。
- 訓練実施後は、良かった点や反省点を確認して、次回に活かしましょう。

■実際に避難介助や初期消火・通報行動を短時間に行う訓練をしてみましょう

▼避難介助



▼初期消火動作



- ・ピンを抜くなどの動作を行った上で放出姿勢をとり、15秒間維持します。
- ・消火器の場合は、3~6m離れた位置からねらいます。

▼通報訓練

●119番受付員役



火事ですか、救急ですか? 火事です
 場所はどこですか? ○○市○○町○丁目○番○号です
 何が燃えていますか? ○○が燃えています

●通報者役



あなたの名前と、今かけている電話の番号を教えてください
 私の名前は○○○○です
 電話番号は○○-○○○○-○○○○です

実際に火災が発生したときには気が動転し、落ち着いて通報できなくなる場合があります。あわてて一方的に話すと正確に伝わらない上、時間もかかりますので、落ち着いて聞かれたことに正確に答えていくと良いでしょう。ただし、通報している場所はまだ煙や火が拡大するなどの危険が迫っている場合は、すぐに避難しましょう。

自己チェックのポイント

- 訓練はケガなく、実施できましたか。
- 自動火災報知設備の作動等を受けた適切な対応が理解できましたか。
- 各部屋を確認し、火災場所の確認ができましたか。
- 火災場所の確認時には、消火器を携行しましたか。
- 消火器の使い方はわかりましたか。
- 適切に119番通報できましたか(又は火災通報装置の取扱いが理解できましたか)。
- 自力で避難できない方を適切に介助できましたか。
- 火災室を離れるときは、入り口のドアや引き戸を閉鎖しましたか。
- 逃げ遅れ者の有無を確認しましたか。
- 消防隊へ必要な情報を適切に伝えることができましたか。
- 近隣協力者との連携はうまくできましたか。

その他、気付いたことなどを皆さんで話し合いながら、万が一の火災に備えましょう!

消防訓練にあたって